

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町

JA会津よつば(あいづ地区)・JA全農福島県本部

福島県農業共済組合会津支所・福島県会津農林事務所農業振興普及部

育苗のポイント

- 1 塩水選と種子消毒をきちんと行い、病害の発生を抑えましょう。
- 2 浸種を十分に行い、出芽のばらつきを少なくしましょう。
- 3 苗の種類にあった適正播種量を守りましょう。
- 4 育苗中は被覆資材を上手に使い、適切な温度管理を行いましょう。
- 5 病害の特徴や発生要因を確認し、予防防除に努めましょう。



1 塩水選と種子消毒をきちんと行い、病害の発生を抑えましょう。

(1) 未消毒の種子は、必ず種子消毒を行いましょう。

ばか苗病といった種子伝染性病害の対策につながります。

(2) 購入種子の場合でも、必ず塩水選を行い、充実した健全な種子を選びましょう。

比重 うるち：1.13 (水10L当たり食塩2.1kg、硫安の場合は2.7kg)
も ち：1.10

2 浸種を十分に行い、出芽のばらつきを少なくしましょう。

水温10~12°Cで、12~14日程度を目安とします。

もみ袋には種もみを詰めすぎないようにしましょう。

水槽にも、もみ袋を詰めすぎないようにしてください。

浸種3日目までは水の交換は行わず、4日目以降は酸素供給のために毎日水を交換しましょう。

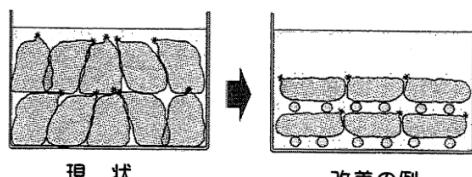


図1：浸種時の水槽のイメージ

3 苗の種類にあった適正播種量を守りましょう。

表1：苗の種類と播種量

| 苗の種類 | 播種量 (g/箱) | 育苗日数 (日) | 草丈(cm) | 葉齢 (葉) |
|------|--------------|-------------|--------|-----------|
| 稚苗 | 200 | 20~25 | 10~13 | 2.2~2.5 |
| 中苗 | 100 | 30~35 | 13~15 | 3.0~3.9 |

4 育苗中は被覆資材を上手に使い、温度管理を行いましょう。

温度計を設置し、ハウス内の温度を確認しましょう。

特に、高温による苗やけに注意をしてください。

表2：育苗中の温度管理の目安

| 育苗時期 | 昼間の温度 | 夜間の温度 |
|------|---------|---------|
| 緑化期 | 25°C | 12~15°C |
| 硬化期 | 15~20°C | 10~15°C |

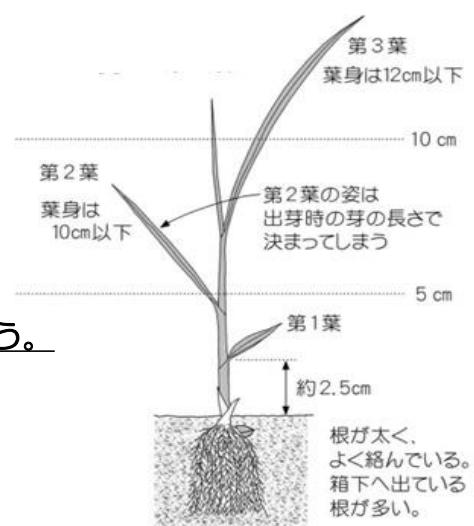


図2：理想の中苗の姿

表3：主な被覆資材の特徴例

| 被覆資材の例 | 資材の特徴 |
|-------------------------|--|
| シルバー系フィルム (例:ミラーシート) | (利点)昼間の温度が上がりにくく、夜間の保温性がよい。 (欠点)遮光率の低いフィルムは、晴天時に苗やけが出やすい。 |
| アルミ蒸着シート (例:本州太陽シート) | (利点)遮光率が高く、温度が上がりにくい。 (欠点)地温を上げる効果が低く、低温時には注意が必要。 アルミが剥げてしまうと苗やけが発生しやすい。 |

5 病害の特徴や発生要因を確認し、予防防除に努めましょう。

表4：育苗期の主な病害

| 主な病害 | 病害の特徴 | 発生要因 |
|--------------------|---|--|
| ばか苗病 | 育苗の中～後期に、葉鞘および葉身が徒長し、葉色が黄化する。 | ・罹病種子の使用。 ・種子消毒の未実施。 |
| もみ枯細菌病 | 幼芽の褐変、わん曲、腐敗枯死。 育苗中期以降：苗の基部が退色、腐敗して新葉が抜ける。 すり鉢状の坪枯れ症状となる。 | ・罹病種子の使用。 ・種子消毒の未実施。 ・催芽～育苗期間の30℃以上の高温多湿。 |
| 苗立枯細菌病 | もみ枯細菌病と症状が似ているが、葉が赤茶けて針状に枯死する。 | ・床土のpHが高い(5.6以上) ・床土の透水性が悪い。 |
| 苗立枯病 (フザリウム属菌) | 地際部及び根が褐変する。苗の基部やもみの周りに白色ないしは紅色のカビが生える。 | ・緑化及び硬化期間中の極端な温度変化や10℃以下の低温。 ・床土のpHが低い。 |
| 苗立枯病 (ピシウム属菌) | 腐敗枯死症状、またはムレ苗症状。 ムレ苗症状は育苗後期に発生する。(カビは見えない) | ・緑化期以降の低温。 ・野菜畠土の使用や、河川水での浸種、かん水で感染することがある。 |
| 苗立枯病 (トリコテルマ属菌) | 床土表面やもみ周辺に白いカビが生え、その後帯緑色から青緑色となる。 苗の地際部や不完全葉、根が褐変腐敗する。 | ・育苗期間の高温。 ・床土のpHが低い。 ・播種時のかん水不足などによる床土の乾燥。 |

表5：薬剤の例

| 薬剤名 | 対象病害 | 使用時期 | 使用方法 | 使用量 |
|------------------|-------------------------------|----------------------|---------------|------------------------------|
| ナエファイン フロアブル | 苗立枯病 (ピシウム菌、リゾープス菌・フザリウム菌) | 播種時から 緑化期 ・播種時 | 土壤灌注 | 1000倍希釀液を、 1箱当たり0.5L |
| タチガレースM 液剤 | 苗立枯病 (フザリウム菌、ピシウム菌) | 播種時又は 発芽後 | 土壤灌注 | 500～1000倍希釀液を、 1箱当たり500ml |
| ダコレート 水和剤 | 苗立枯病 (トリコデルマ属菌) | 播種時から 緑化期 | 灌注 | 400～600倍希釀液を、 1箱当たり0.5L |
| ルーチンアドスピノ 箱粒剤 | 苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) | 播種時 (覆土前) | 育苗箱の 上から散布 | 1箱当たり50g |